

部門別事業報告

IV 人間ドック

一日人間ドック・人間ドック
専門ドック

V 生活機能評価

VI 精密検査外来

VII 画像検査オーダーシステム

一日人間ドック・人間ドック

2004（平成16）年に人間ドックセンター（盛岡市永井）を開設して以来、より快適な環境のもとで充実した内容の人間ドックを提供するため、検査内容の見直しや機器整備などに力を注いできた。そして2014年4月、新施設移転（盛岡市北飯岡、施設愛称：ビッグワッフル）を機に新たに選べる人間ドックをスタートさせた。新しい人間ドックでは、多様化するお客様の要望に対応するため、より精度の高い機器を整備するとともに、選んだコースにオプションを加えることでオーダーメイドな検査ができるよう選択肢を広げた。なお、従来の一日人間ドックは県南センター（金ケ崎）と人間ドックセンターで引き続き実施している。

■実施状況

平成26年度の検査人数は前年度より1,056人増の20,751人であった。受診構成は、40歳から60歳代が大半を占めている。また、男女比はおよそ6：4となっている（表1）。

■検査成績

有所見率は98.4%と前年度同様に高い数字であった。このうち、約70%の人たちが何らかの検査で要医療という判定結果であった（表1）。各コース別の成績をみてもほぼ同様の結果であった（表2）。

項目別有所見率をしてみると、各コース共通となる項目の中では腹部超音波65.4%が最も高く、次いでHbA1c（NGSP）65.3%、LDL-コレステロール57.0%、体脂肪率40.5%、腹囲38.2%、総コレステロール34.6%であった（表3）。それ以外の項目で有所見率が高かったのは、ホルター心電図98.6%、上部消化器管内視鏡84.8%、マルチヘリカルCT65.5%、CAVI44.8%、内臓脂肪CT45.5%、MRI・MRA42.5%であった（表3）。

【一日人間ドック】—県南センター、人間ドックセンター—

■検査項目

身体計測	体温・身長・体重・BMI・体脂肪率・肥満度・腹囲
感覚器	視力・聴力・眼圧
免疫学的検査	RF・CRP
代謝	尿糖・血糖（空腹時）・HbA1c（NGSP）・総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪・尿酸・カルシウム・リン
骨強度	踵骨超音波
末梢血等	赤血球数・血色素量・血球容積・MCH・MCV・MCHC・白血球数・血小板数
泌尿器	クレアチニン・推算糸球体ろ過量・尿蛋白・尿潜血・尿沈渣・尿比重・尿pH・前立腺特異抗原（50歳以上男性）
肝・胆・膵	AST・ALT・γ-GTP・乳酸脱水素酵素・アルカリ性フォスファターゼ・総ビリルビン・直接ビリルビン・間接ビリルビン・総蛋白・アルブミン・A/G・肝炎ウイルス（初回のみ）・AFP・膵アミラーゼ
腹部超音波	肝炎ウイルス（初回のみ）・AFP・膵アミラーゼ
消化管	胃部X線（デジタル）・便潜血
循環器	血圧・心拍数・心電図（安静時）・眼底
呼吸器	胸部X線（デジタル）・肺機能・喀痰細胞診（危険因子の高い人）
内科診察	胸部聴診・腹部触診等
甲状腺	視触診
乳房	視触診・乳房X線（40歳以上の女性）
その他	血液型（ABO・Rh） *初回および2回目のみ実施

■オプション検査

脳MRI・MRA、高次脳機能
膀胱超音波
ホルター心電図
心臓血管超音波
胸部CT検査
内臓脂肪CT
子宮頸がん（内診・子宮頸部細胞診）
HPV（ヒトパピローマウイルス）*
乳房超音波検査
歯周病

■人間ドックセンターのみ対応
*子宮頸がん受診の方限定

図1 項目別・性別・年代別有所見率

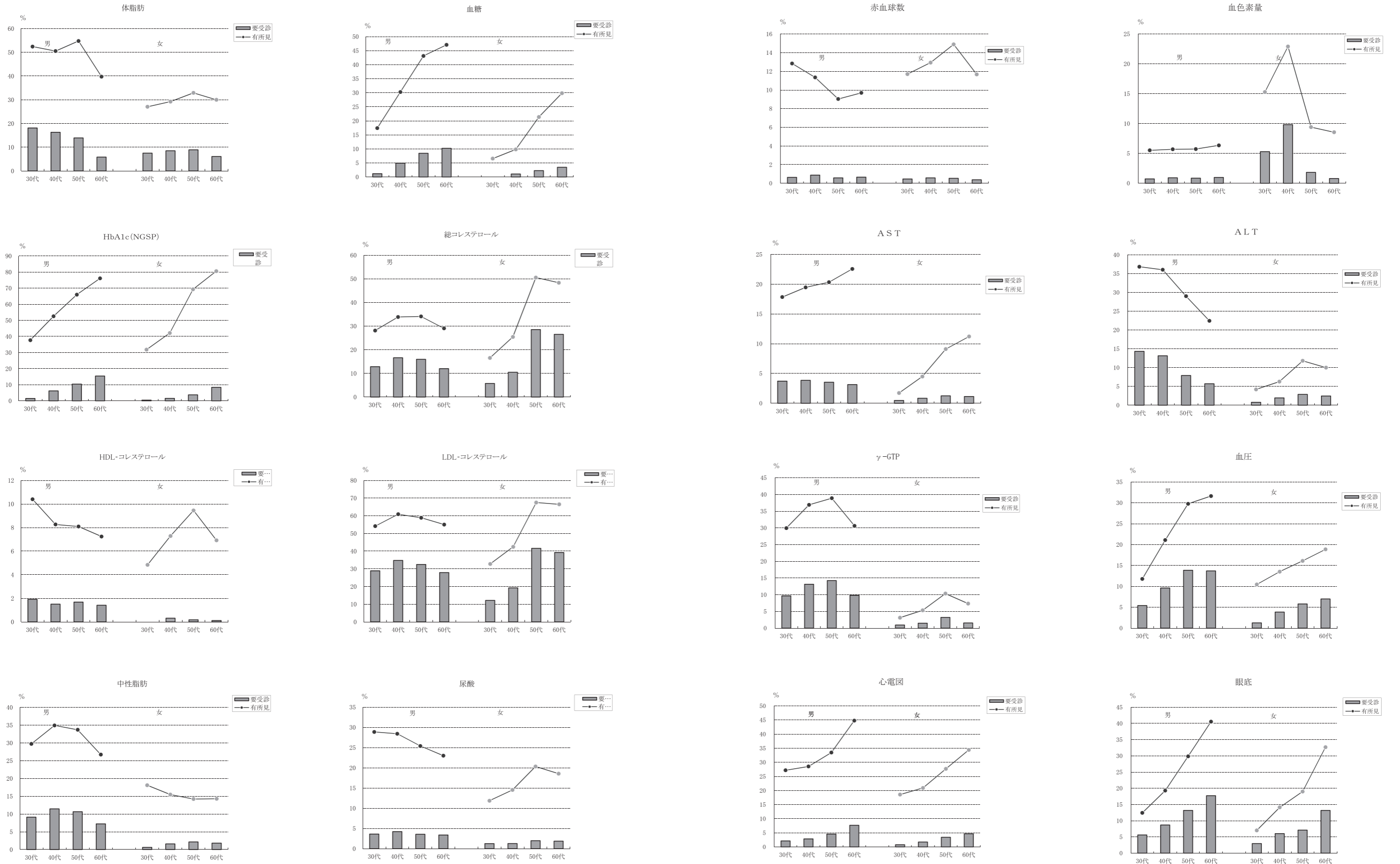


表4 歯周病検査（オプション検査）（ ）内は%

区分	総合判定	出（ヘモグロビン）検査	炎（乳酸脱水素酵素）検査	問診スコア
計	検査人数 301	301	301	301
	有所見者数 160 (53.2)	99 (32.9)	128 (42.5)	159 (52.8)
	検査人数 195	195	195	195
	有所見者数 102 (52.3)	65 (33.3)	82 (42.1)	123 (63.1)
男	軽度所見 8 (4.1)	17 (8.7)	3 (1.5)	52 (26.7)
	異常所見 94 (48.2)	48 (24.6)	79 (40.5)	71 (36.4)
	検査人数 106	106	106	106
	有所見者数 58 (54.7)	34 (32.1)	46 (43.4)	36 (34.0)
女	軽度所見 6 (5.7)	11 (10.4)	1 (0.9)	19 (17.9)
	異常所見 52 (49.1)	23 (21.7)	45 (42.5)	17 (16.0)

専門ドック

専門ドックは、「より専門的な検査を受診したい」との要望に応えるため、「人間ドックセンター」の開設とともにスタートした。開設当初は目標人数には及ばなかったが、2005（平成17）年に専門ドックの主要な検査のみ一日人間ドックへ追加するオプション検査とし、受診し易い体制を整備し、大変好評を得ている。ここでは、一日人間ドックのオプションではなく、単独で実施された専門ドックの結果のみを掲載している。

■実施状況

平成26年度の検査人数は、脳コース222人（前年度比52.5%）、心臓コース89人（前年度比93.7%）、肺コース61人（前年度比160.5%）、レディースドック48人（前年度比49.0%）であった（表1,3）。平成22年度より判定が見直され、各コースの主要検査毎の判定と、かつ関連検査を含めた判定を総合判定として結果を出している。ここでは、各コースの主要検査別、項目別の成績のみ掲載している。なお、レディースドックについては例年と変わらず実施した検査全てを総合して判定している。

■検査成績

主要検査の有所見率は、脳コース36.5%、心臓コース57.3%、肺コース49.2%であった（表1）。項目別にみると、各コースにおいて有所見率が高い主要検査は、肺コース：マルチヘリカルCT77.0%、心臓コース：血管系超音波30.3%、脳コース：MRI・MRA45.9%であった（表2）。

レディースドックの有所見率は93.8%と例年に比べて高い値を示した。項目別に最も高いのはLDL-コレステロールの43.8%であった。また、40歳以上を対象とした乳房X線の有所見者数は5人（有所見率11.9%）、40歳未満へ推奨している乳房超音波では13人（有所見率27.1%）という結果であった（表3）。

■専門ドック検査項目

区分	検査項目
脳	脳MRI・MRA・高次脳機能 血液型（ABO・Rh）・体温・身長・体重・肥満度・BMI・体脂肪率・内科診察 尿糖・血糖・HbA1c（NGSP）・総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪・尿酸 赤血球数・血色素量・血球容積・白血球数・血小板数 クレアチニン・推算糸球体ろ過量・尿蛋白・尿潜血・尿沈渣 AST・ALT・γ-GTP・総蛋白・アルブミン・A/G 胸部X線（デジタル）・血圧・心電図（安静時）
心臓	心臓超音波・血管系超音波（頸動脈・腹部大動脈）・ABI・CAVI・BNP 血液型（ABO・Rh）・体温・身長・体重・肥満度・BMI・体脂肪率・内科診察 尿糖・血糖・HbA1c（NGSP）・総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪・尿酸 赤血球数・血色素量・血球容積・白血球数・血小板数 クレアチニン・推算糸球体ろ過量・尿蛋白・尿潜血・尿沈渣 AST・ALT・γ-GTP・総蛋白・アルブミン・A/G 胸部X線（デジタル）・血圧・心電図（安静時）・ホルター心電図
肺	胸部X線（デジタル）・マルチヘリカルCT・肺機能・酸素飽和度・喀痰細胞診 CRP・CEA・シフラ21-1 体温・身長・体重・肥満度・BMI・体脂肪率・内科診察 尿蛋白・尿潜血・尿沈渣 赤血球数・血色素量・血球容積・白血球数・血液像 血圧・心電図（安静時）
レディース	婦人科：内診・子宮頸部細胞診・HPV（ヒトパピローマウイルス）・経膈超音波・体部細胞診（医師の判断による） 乳房：視触診・X線（40歳以上）・超音波（40歳未満、希望者） 甲状腺：視触診・超音波・※TSH・FT4（医師の判断による） 体温・身長・体重・肥満度・BMI・体脂肪率・腹囲・基礎代謝量 血圧・赤血球数・血色素量・血球容積・血清鉄・MCH・MCV・MCHC・尿蛋白・尿潜血・尿沈渣 尿糖・血糖・総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪 踵骨超音波（骨強度）

表1 脳、心臓、肺コースにおける主要検査別成績

()内は%

区分	計				男				女			
	検査人数	有所見者数	有所見内訳 要経過観察	有所見内訳 要医療	検査人数	有所見者数	有所見内訳 要経過観察	有所見内訳 要医療	検査人数	有所見者数	有所見内訳 要経過観察	有所見内訳 要医療
脳	222	81 (36.5)	44 (19.8)	37 (16.7)	141	53 (37.6)	28 (19.9)	25 (17.7)	81	28 (34.6)	16 (19.8)	12 (14.8)
心臓	89	51 (57.3)	30 (33.7)	21 (23.6)	62	34 (54.8)	20 (32.3)	14 (22.6)	27	17 (-)	10 (-)	7 (-)
肺	61	30 (49.2)	9 (14.8)	21 (34.4)	47	26 (55.3)	7 (14.9)	19 (40.4)	14	4 (-)	2 (-)	2 (-)

表2 脳・心臓・肺ドック 項目別成績

()内は%

区分	脳				心臓(循環器)						肺(呼吸器)	
	M R I	M R I	高機次脳能	血圧	心電図	ホルタル電図	心臓超音波	血管系超音波	A B I	C A V I	B N P	胸部X線
計	検査人数 222 有所見者数 102 (45.9)	検査人数 222 有所見者数 5 (2.3)	検査人数 277 有所見者数 70 (25.3)	検査人数 277 有所見者数 123 (44.4)	検査人数 12 有所見者数 12 (-)	検査人数 89 有所見者数 3 (3.4)	検査人数 89 有所見者数 27 (30.3)	検査人数 89 有所見者数 27 (30.3)	検査人数 88 有所見者数 37 (42.0)	検査人数 88 有所見者数 7 (8.0)	検査人数 275 有所見者数 22 (8.0)	検査人数 61 有所見者数 47 (77.0)
男	検査人数 141 有所見者数 68 (48.2)	検査人数 141 有所見者数 4 (2.8)	検査人数 181 有所見者数 52 (28.7)	検査人数 181 有所見者数 89 (49.2)	検査人数 7 有所見者数 7 (-)	検査人数 62 有所見者数 2 (3.2)	検査人数 62 有所見者数 19 (30.6)	検査人数 62 有所見者数 19 (30.6)	検査人数 62 有所見者数 25 (40.3)	検査人数 61 有所見者数 6 (9.8)	検査人数 180 有所見者数 15 (8.3)	検査人数 47 有所見者数 37 (78.7)
男	軽度所見 44 異常所見 24 判定保留 17.0	軽度所見 3 異常所見 1 判定保留 0.7	軽度所見 24 異常所見 28 判定保留 15.5	軽度所見 74 異常所見 15 判定保留 8.3	軽度所見 7 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 2 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 16 異常所見 3 判定保留 4.8	軽度所見 16 異常所見 3 判定保留 4.8	軽度所見 16 異常所見 9 判定保留 14.5	軽度所見 4 異常所見 2 判定保留 3.3	軽度所見 7 異常所見 8 判定保留 4.4	軽度所見 26 異常所見 11 判定保留 23.4
女	検査人数 81 有所見者数 34 (42.0)	検査人数 81 有所見者数 1 (1.2)	検査人数 96 有所見者数 18 (18.8)	検査人数 96 有所見者数 34 (35.4)	検査人数 5 有所見者数 5 (-)	検査人数 27 有所見者数 1 (-)	検査人数 27 有所見者数 8 (-)	検査人数 27 有所見者数 8 (-)	検査人数 26 有所見者数 12 (-)	検査人数 27 有所見者数 1 (-)	検査人数 95 有所見者数 7 (7.4)	検査人数 14 有所見者数 10 (-)
女	軽度所見 22 異常所見 12 判定保留 14.8	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 13 異常所見 5 判定保留 5.2	軽度所見 26 異常所見 8 判定保留 8.3	軽度所見 5 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 0 異常所見 1 判定保留 (-)	軽度所見 6 異常所見 2 判定保留 (-)	軽度所見 6 異常所見 2 判定保留 (-)	軽度所見 10 異常所見 2 判定保留 (-)	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 6 異常所見 1 判定保留 1.1	軽度所見 9 異常所見 1 判定保留 (-)
区分	関連検査											
	中性脂肪	尿酸	赤血球数	血色素量	血球容積	M C H	M C V	M C H C	白血球数	血液像	血小板数	クレアチニン
計	検査人数 264 有所見者数 105 (39.8)	検査人数 264 有所見者数 55 (20.8)	検査人数 277 有所見者数 40 (14.4)	検査人数 277 有所見者数 31 (11.2)	検査人数 277 有所見者数 33 (11.9)	検査人数 277 有所見者数 13 (4.7)	検査人数 277 有所見者数 19 (6.9)	検査人数 277 有所見者数 17 (6.1)	検査人数 277 有所見者数 28 (10.1)	検査人数 61 有所見者数 2 (3.3)	検査人数 264 有所見者数 14 (5.3)	検査人数 264 有所見者数 6 (2.3)
男	検査人数 170 有所見者数 73 (42.9)	検査人数 170 有所見者数 42 (24.7)	検査人数 181 有所見者数 28 (15.5)	検査人数 181 有所見者数 21 (11.6)	検査人数 181 有所見者数 28 (15.5)	検査人数 181 有所見者数 6 (3.3)	検査人数 181 有所見者数 9 (5.0)	検査人数 181 有所見者数 14 (7.7)	検査人数 181 有所見者数 22 (12.2)	検査人数 47 有所見者数 1 (2.1)	検査人数 170 有所見者数 7 (4.1)	検査人数 170 有所見者数 6 (3.5)
男	軽度所見 38 異常所見 35 判定保留 20.6	軽度所見 36 異常所見 6 判定保留 3.5	軽度所見 25 異常所見 3 判定保留 1.7	軽度所見 16 異常所見 5 判定保留 2.8	軽度所見 17 異常所見 11 判定保留 6.1	軽度所見 6 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 8 異常所見 1 判定保留 0.6	軽度所見 13 異常所見 1 判定保留 0.6	軽度所見 5 異常所見 17 判定保留 9.4	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 3 異常所見 4 判定保留 2.4	軽度所見 5 異常所見 1 判定保留 0.6
女	検査人数 94 有所見者数 32 (34.0)	検査人数 94 有所見者数 13 (13.8)	検査人数 96 有所見者数 12 (12.5)	検査人数 96 有所見者数 10 (10.4)	検査人数 96 有所見者数 5 (5.2)	検査人数 96 有所見者数 7 (7.3)	検査人数 96 有所見者数 10 (10.4)	検査人数 96 有所見者数 3 (3.1)	検査人数 96 有所見者数 6 (6.3)	検査人数 14 有所見者数 1 (-)	検査人数 94 有所見者数 7 (7.4)	検査人数 94 有所見者数 0 (0)
女	軽度所見 24 異常所見 8 判定保留 8.5	軽度所見 13 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 12 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 8 異常所見 2 判定保留 2.1	軽度所見 3 異常所見 2 判定保留 2.1	軽度所見 4 異常所見 3 判定保留 3.1	軽度所見 7 異常所見 3 判定保留 3.1	軽度所見 2 異常所見 1 判定保留 1.0	軽度所見 4 異常所見 2 判定保留 2.1	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 6 異常所見 1 判定保留 1.1	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (0)

区分	関連検査													
	肺機能	酸素飽和度	喀痰細胞診	C R P	C E A	シフラー	体脂肪率	内科診察	尿糖	血糖	HbA1c	総コレステロール	LDLコレステロール	LDLコレステロール
計	検査人数 61 有所見者数 14 (23.0)	検査人数 61 有所見者数 1 (1.6)	検査人数 55 有所見者数 0 (0)	検査人数 61 有所見者数 6 (9.8)	検査人数 61 有所見者数 9 (14.8)	検査人数 61 有所見者数 2 (3.3)	検査人数 277 有所見者数 124 (44.8)	検査人数 277 有所見者数 36 (13.0)	検査人数 264 有所見者数 17 (6.4)	検査人数 264 有所見者数 55 (20.8)	検査人数 264 有所見者数 177 (67.0)	検査人数 264 有所見者数 83 (31.4)	検査人数 264 有所見者数 25 (9.5)	検査人数 264 有所見者数 137 (51.9)
男	検査人数 47 有所見者数 12 (25.5)	検査人数 47 有所見者数 1 (2.1)	検査人数 45 有所見者数 0 (0)	検査人数 47 有所見者数 3 (6.4)	検査人数 47 有所見者数 9 (19.1)	検査人数 47 有所見者数 2 (4.3)	検査人数 181 有所見者数 90 (49.7)	検査人数 181 有所見者数 19 (10.5)	検査人数 170 有所見者数 16 (9.4)	検査人数 170 有所見者数 41 (24.1)	検査人数 170 有所見者数 114 (67.1)	検査人数 170 有所見者数 43 (25.3)	検査人数 170 有所見者数 21 (12.4)	検査人数 170 有所見者数 80 (47.1)
男	軽度所見 8 異常所見 4 判定保留 17.0	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 2.1	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 1 異常所見 2 判定保留 4.3	軽度所見 0 異常所見 9 判定保留 19.1	軽度所見 0 異常所見 2 判定保留 4.3	軽度所見 63 異常所見 27 判定保留 34.8	軽度所見 18 異常所見 9 判定保留 9.9	軽度所見 6 異常所見 10 判定保留 3.5	軽度所見 31 異常所見 10 判定保留 18.2	軽度所見 90 異常所見 24 判定保留 52.9	軽度所見 28 異常所見 15 判定保留 16.5	軽度所見 16 異常所見 5 判定保留 9.4	軽度所見 46 異常所見 34 判定保留 27.1
女	検査人数 14 有所見者数 2 (-)	検査人数 14 有所見者数 0 (-)	検査人数 10 有所見者数 0 (-)	検査人数 14 有所見者数 3 (-)	検査人数 14 有所見者数 0 (-)	検査人数 14 有所見者数 0 (-)	検査人数 96 有所見者数 34 (35.4)	検査人数 96 有所見者数 17 (17.7)	検査人数 94 有所見者数 1 (1.1)	検査人数 94 有所見者数 14 (14.9)	検査人数 94 有所見者数 63 (67.0)	検査人数 94 有所見者数 40 (42.6)	検査人数 94 有所見者数 4 (4.3)	検査人数 94 有所見者数 57 (60.6)
女	軽度所見 2 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 2 異常所見 1 判定保留 (-)	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (-)	軽度所見 27 異常所見 7 判定保留 28.1	軽度所見 13 異常所見 4 判定保留 13.5	軽度所見 0 異常所見 1 判定保留 (0)	軽度所見 13 異常所見 1 判定保留 13.8	軽度所見 59 異常所見 4 判定保留 62.8	軽度所見 21 異常所見 19 判定保留 22.3	軽度所見 4 異常所見 0 判定保留 4.3	軽度所見 32 異常所見 25 判定保留 34.0
区分	関連検査													
	推算糸球体	尿蛋白	尿潜血	尿沈渣	A S T	A L T	γ-G T P	総蛋白	アルブミン	A / G				
計	検査人数 264 有所見者数 17 (6.4)	検査人数 277 有所見者数 13 (4.7)	検査人数 277 有所見者数 37 (13.4)	検査人数 277 有所見者数 34 (12.3)	検査人数 264 有所見者数 43 (16.3)	検査人数 264 有所見者数 53 (20.1)	検査人数 264 有所見者数 66 (25.0)	検査人数 264 有所見者数 5 (1.9)	検査人数 264 有所見者数 7 (2.7)	検査人数 264 有所見者数 9 (3.4)				
男	検査人数 170 有所見者数 17 (10.0)	検査人数 181 有所見者数 12 (6.6)	検査人数 181 有所見者数 16 (8.8)	検査人数 181 有所見者数 14 (7.7)	検査人数 170 有所見者数 37 (21.8)	検査人数 170 有所見者数 44 (25.9)	検査人数 170 有所見者数 58 (34.1)	検査人数 170 有所見者数 3 (1.8)	検査人数 170 有所見者数 6 (3.5)	検査人数 170 有所見者数 8 (4.7)				
男	軽度所見 11 異常所見 6 判定保留 3.5	軽度所見 7 異常所見 5 判定保留 2.8	軽度所見 10 異常所見 6 判定保留 3.3	軽度所見 12 異常所見 2 判定保留 1.1	軽度所見 35 異常所見 2 判定保留 1.2	軽度所見 31 異常所見 13 判定保留 7.6	軽度所見 40 異常所見 18 判定保留 10.6	軽度所見 2 異常所見 1 判定保留 0.6	軽度所見 3 異常所見 3 判定保留 1.8	軽度所見 5 異常所見 3 判定保留 1.8				
女	検査人数 94 有所見者数 0 (0)	検査人数 96 有所見者数 1 (1.0)	検査人数 96 有所見者数 21 (21.9)	検査人数 96 有所見者数 20 (20.8)	検査人数 94 有所見者数 6 (6.4)	検査人数 94 有所見者数 9 (9.6)	検査人数 94 有所見者数 8 (8.5)	検査人数 94 有所見者数 2 (2.1)	検査人数 94 有所見者数 1 (1.1)	検査人数 94 有所見者数 1 (1.1)				
女	軽度所見 0 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 (0)	軽度所見 12 異常所見 9 判定保留 12.5	軽度所見 18 異常所見 2 判定保留 18.8	軽度所見 4 異常所見 2 判定保留 4.3	軽度所見 4 異常所見 5 判定保留 4.3	軽度所見 6 異常所見 2 判定保留 6.4	軽度所見 2 異常所見 0 判定保留 2.1	軽度所見 0 異常所見 1 判定保留 (0)	軽度所見 1 異常所見 0 判定保留 1.1				

表3 レディースドック 項目別成績 ()内は%

区分	総合判定	体脂肪率	腹囲	基礎代謝量	血圧	赤血球数	血色素量	血球容積	MCH	MCHC	MCHC	血清鉄	尿蛋白	尿潜血	尿沈渣	尿糖	血糖
検査人数	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
有所見者数	45	14	8		4	9	8	3	12	12	4	7	1	5	11	1	6
	(93.8)	(29.2)	(16.7)		(8.3)	(18.8)	(16.7)	(6.3)	(25.0)	(25.0)	(8.3)	(14.6)	(2.1)	(10.4)	(22.9)	(2.1)	(12.5)
要指導	25	8	8		3	9	6	2	6	5	3	2	0	1	10	0	4
	(52.1)	(16.7)	(16.7)		(6.3)	(18.8)	(12.5)	(4.2)	(12.5)	(10.4)	(6.3)	(4.2)	(0)	(2.1)	(20.8)	(0)	(8.3)
要医療	20	6			1	0	2	1	6	7	1	5	1	4	1	1	2
	(41.7)	(12.5)			(2.1)	(0)	(4.2)	(2.1)	(12.5)	(14.6)	(2.1)	(10.4)	(2.1)	(8.3)	(2.1)	(2.1)	(4.2)
判定保留													0	0	0		
													(0)	(0)	(0)		

区分	総コレステロール	LDL	HDL	中性脂肪	骨質的値	甲状腺視触診	甲状腺超音波	甲状腺TSH	甲状腺FT4	乳房視触診	乳房X線	乳房超音波	婦人科内診	婦人科細胞診	H	P	V	婦人科超音波
検査人数	48	48	48	48	48	48	48	0	0	48	42	48	48	48	1			48
有所見者数	18	4	21	16	15	1	14			5	5	13	10	1	0			11
	(37.5)	(8.3)	(43.8)	(33.3)	(31.3)	(2.1)	(29.2)			(10.4)	(11.9)	(27.1)	(20.8)	(2.1)	(-)			(22.9)
要指導	10	4	7	9	12	0	12			4	5	12	9	0				10
	(20.8)	(8.3)	(14.6)	(18.8)	(25.0)	(0)	(25.0)			(8.3)	(11.9)	(25.0)	(18.8)	(0)				(20.8)
要医療	8	0	14	7	3	1	2			1	0	1	1	1	0			1
	(16.7)	(0)	(29.2)	(14.6)	(6.3)	(2.1)	(4.2)			(2.1)	(0)	(2.1)	(2.1)	(2.1)	(-)			(2.1)
判定保留																		

生活機能評価

高齢社会に突入した現在、「元気に自分らしく、長生きする」ことが誰もの願いである。元気で長生きするには生活習慣病を予防するとともに、老化の進行を防ぎ改善を図ることが必要である。介護保険制度の改正とともに、介護予防の第一歩として生活機能に関する評価の実施が2006(平成18)年から開始された。

特定高齢者の把握については、生活機能評価からの選定だけでなく、地域住民からの連絡や市町村の訪問活動・相談窓口からも見出される。最終的には地域包括支援センターにおいて特定高齢者の決定がなされる。こうした広汎な地域ネットワークによる密接な連携の下、高齢者本人の自己実現の支援をすることが介護予防のめざすところである。

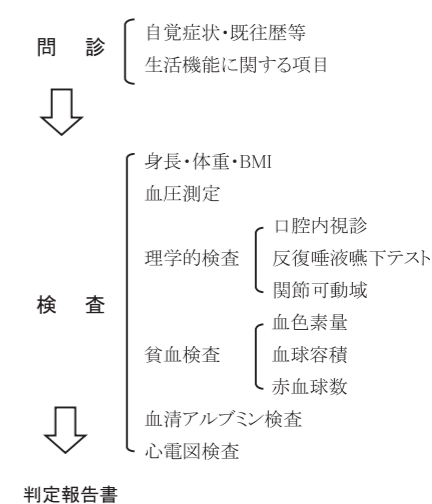
■実施状況

平成26年度の実施団体は前年度同様の8市町村、検査人数は8,276人(前年度比102.0%)と前年度とほぼ変わらなかった。

■検査成績

全体の28.9%(前年度28.6%)にあたる候補者2,391人(前年度2,322人)が特定高齢者の条件に該当するとして選定された(表1)。

図1 検診から判定報告書提出までの流れ



■生活機能に関する項目(基本チェックリスト)

基本チェックリスト	介護プログラムとの対応
1 バスや電車で1人で外出していますか	
2 日用品の買物をしていますか	
3 預貯金の出し入れをしていますか	
4 友人の家を訪ねていますか	
5 家族や友人の相談にのっていますか	
6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
8 15分位続けて歩いていますか	運動器の機能向上
9 この1年間に転んだことがありますか	
10 転倒に対する不安は大きいですか	
11 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	栄養改善
12 身長 cm 体重 kg (BMI=) ※	
13 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	口腔機能の向上
14 お茶や汁物等でむせることがありますか	
15 口の渇きが気になりますか	
16 週に1回以上は外出していますか	閉じこもり予防・支援
17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	
18 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	
19 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	認知症予防・支援
20 今日が何月何日かわからない時がありますか	
21 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	
22 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	
23 (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	うつ病予防・支援
24 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	
25 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	

※BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)が18.5未満の場合に該当とする。

表1 実施状況

()内は%

団体名	検査人数	候補	決定	全般		運動		栄養			口腔		閉じこもり	認知症	うつ
				候補	決定	候補	決定	候補	決定	[Alb]	候補	決定			
計	8,276	2,391	2,418	318	1,478	1,478	59	194	[142]	1,273	1,476	438	1,378	1,144	
		(28.9)	(29.2)	(3.8)	(17.9)	(17.9)	(0.7)	(2.3)	(1.7)	(15.4)	(17.8)	(5.3)	(16.7)	(13.8)	
盛岡市	210	27	27	7	19	19	1	1	[0]	14	14	5	18	12	
		(12.9)	(12.9)	(3.3)	(9.0)	(9.0)	(0.5)	(0.5)	(0)	(6.7)	(6.7)	(2.4)	(8.6)	(5.7)	
葛巻町	967	240	240	27	160	160	2	13	[11]	123	138	64	140	124	
		(24.8)	(24.8)	(2.8)	(16.5)	(16.5)	(0.2)	(1.3)	(1.1)	(12.7)	(14.3)	(6.6)	(14.5)	(12.8)	
岩手町	1,441	288	288	37	167	167	4	19	[16]	161	187	60	168	124	
		(20.0)	(20.0)	(2.6)	(11.6)	(11.6)	(0.3)	(1.3)	(1.1)	(11.2)	(13.0)	(4.2)	(11.7)	(8.6)	
洋野町	295	292	295	30	190	190	3	17	[14]	150	168	37	163	142	
		(99.0)	(100.0)	(10.2)	(64.4)	(64.4)	(1.0)	(5.8)	(4.7)	(50.8)	(56.9)	(12.5)	(55.3)	(48.1)	
普代村	296	44	46	3	34	34	1	1	[2]	14	20	8	12	21	
		(14.9)	(15.5)	(1.0)	(11.5)	(11.5)	(0.3)	(0.3)	(0.7)	(4.7)	(6.8)	(2.7)	(4.1)	(7.1)	
二戸市	2,792	771	771	104	421	421	22	72	[51]	438	494	110	464	425	
		(27.6)	(27.6)	(3.7)	(15.1)	(15.1)	(0.8)	(2.6)	(1.8)	(15.7)	(17.7)	(3.9)	(16.6)	(15.2)	
一戸町	2,132	608	608	96	392	392	19	53	[34]	318	383	140	369	238	
		(28.5)	(28.5)	(4.5)	(18.4)	(18.4)	(0.9)	(2.5)	(1.6)	(14.9)	(18.0)	(6.6)	(17.3)	(11.2)	
九戸村	143	121	143	14	95	95	7	18	[14]	55	72	14	44	58	
		(84.6)	(100.0)	(9.8)	(66.4)	(66.4)	(4.9)	(12.6)	(9.8)	(38.5)	(50.3)	(9.8)	(30.8)	(40.6)	

精密検査外来

2014年4月新施設に移転し、新しい人間ドックをスタートすると共に健診以外のサポートも充実させた。その一つが精密検査外来である。より確実に病気の早期発見・早期治療へ繋げることを目的とし、当協会の受診（健康診断および人間ドック）結果で再検査・精密検査が必要と診断された方を対象としている。完全予約制で待ち時間が少なく、一度の受診で診察・検査・結果説明まで完了させる体制を取っているのは大きな特徴である。また、呼吸器科、循環器科、消化器科の3つの診療科目を実施、より高度な検査を保険診療で受けることができる。

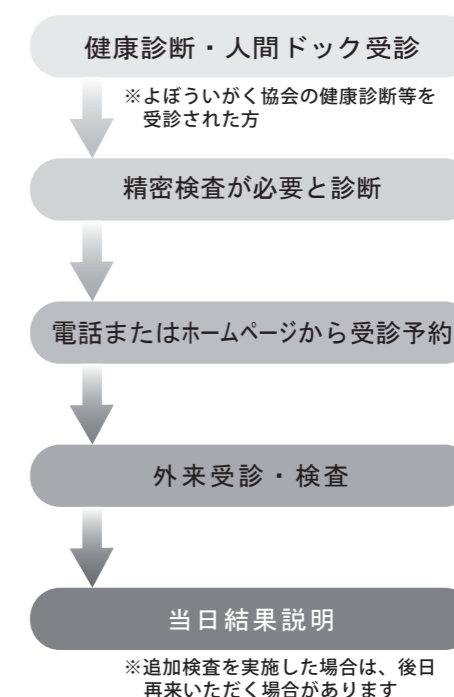
■実施状況

平成26年度の検査人数は1,229人であった。各診療科の内訳は呼吸器科658人、循環器科158人、消化器科413人であった（表1）。

■検査成績

部門別検査人数をみると、人間ドックにおいて受診が多かったのは循環器科であった。循環器科受診全体の49.4%と約半数近くであった。呼吸器科、消化器科はそれぞれ全体の3割前後（30.1%、26.4%）であった。産業保健においては、循環器科、呼吸器科、消化器科それぞれ全体の5割前後（47.5%、47.4%、51.3%）であった。地域保健については、循環器科3.2%と最も少なく、呼吸器科、消化器科ともに全体の2割程度（22.5%、22.3%）となっている（表2）

図1 外来受診までの流れ



■対象となる主な検査項目

診療科	対象となる検査項目	精密検査外来で実施する検査
循環器	心電図検査（Brugada型など）	ホルター心電図検査、心臓超音波検査など
	頸動脈超音波検査	MRI・MRA検査、負荷心電図検査など
	血圧脈波検査	頸動脈超音波検査、負荷心電図検査など
呼吸器	胸部X線検査（循環器所見）	心臓超音波検査、血液検査
	心臓超音波検査	心臓超音波検査、血液検査
	胸部X線検査（呼吸器所見） 胸部CT検査	胸部CT検査、喀痰細胞診検査など
消化器	肺機能検査	胸部CT検査など
	胃部X線検査	上部内視鏡検査
	便潜血検査	下部内視鏡検査

表1 診療科別検査人数

	循環器科	呼吸器科	消化器科		
			計	上部内視鏡	下部内視鏡
計	158	658	413	268	145
4月					
5月		8			
6月	3	35	23	15	8
7月	8	82	30	17	13
8月	11	68	29	21	8
9月	17	79	39	22	17
10月	14	92	48	32	16
11月	23	67	43	29	14
12月	29	70	47	31	16
1月	24	64	40	25	15
2月	9	44	56	40	16
3月	20	49	58	36	22

表2 部門別検査人数

【人間ドック】

	循環器科	呼吸器科	消化器科		
			計	上部内視鏡	下部内視鏡
計	78 (49.4)	198 (30.1)	109 (26.4)	80	29
4月					
5月		3			
6月	2	10	8	7	1
7月	4	17	7	5	2
8月	7	13	9	7	2
9月	10	19	9	5	4
10月	10	29	9	5	4
11月	12	22	13	11	2
12月	11	20	11	8	3
1月	10	24	9	6	3
2月	3	17	13	12	1
3月	9	24	21	14	7

【産業保健】

	循環器科	呼吸器科	消化器科		
			計	上部内視鏡	下部内視鏡
計	75 (47.5)	312 (47.4)	212 (51.3)	136	76
4月					
5月		3			
6月	1	18	10	8	2
7月	4	48	20	12	8
8月	4	46	14	10	4
9月	6	39	18	11	7
10月	4	34	24	17	7
11月	11	24	23	12	11
12月	18	23	22	15	7
1月	10	30	13	8	5
2月	6	26	34	22	12
3月	11	21	34	21	13

【地域保健】

	循環器科	呼吸器科	消化器科		
			計	上部内視鏡	下部内視鏡
計	5 (3.2)	148 (22.5)	92 (22.3)	52	40
4月					
5月		2			
6月		7	5		5
7月		16	3		3
8月		9	6	4	2
9月	1	21	12	6	6
10月		29	15	10	5
11月		22	7	6	1
12月		27	14	8	6
1月	4	10	18	11	7
2月		3	10	7	3
3月		2	2		2

画像検査オーダーシステム

近年の地域医療事情は、新しく高度な医療機器が整備され、専門医が在中する中核病院への患者集中が問題になっている。それにより、個人病院などの患者は減少、経営側の負担は増大、医療従事者の離職という要因になっている。そこで、地域の医療機関が連携し、それぞれの特徴を活かし、地域全体がひとつの医療システムとなって最適な医療を提供する「地域医療連携」が提唱されている。当協会では、人間ドックで使用しているMRI、CTなどの高度医療機器を利用した画像検査受託事業を平成18年度より実施している。当協会近郊の医療機関に活用していただくことで、「機器の稼働率確保」、「地域医療の質の向上」、「かかりつけ医での振り分けによる中核病院の負担軽減」など、当協会、地域の医療機関・中核病院、患者間で相互のメリットが生まれると考える。

■受託状況

平成26年度の受託件数は648件であった。検査項目の内訳は、CT344件(全体の53.1%)、MRI275件(同じく42.4%)、MMG4件(同じく0.6%)、US25件(同じく3.9%)であった(表1)。

事業は平成18年度より開始しているが、平成23年度に営業展開を拡大したことにより、年々その需要は高くなっている。

■特徴

この事業における当協会の特徴は以下の3点である。

1. 複数の検査を予約時間通りに受診可能
MRIとマルチヘリカルCTの他に、腹部・頸動脈・乳房の各種超音波検査とマンモグラフィ検査を加え、総合的な検査を一度に同一フロアで受診することができる。また、予約時間通りに検査を受診できる。
2. 医療機関までの受診者の送迎
要望があれば当協会と医療機関との往復を無料で実施する。
3. 検査料金を保険診療点数以下に設定
当協会から医療機関へ請求する検査料は、保険診療点数の8割程度としている。

図1 画像検査受託事業の流れ

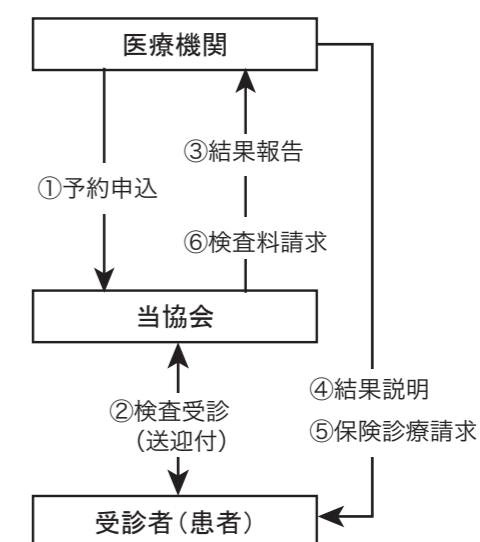


表1 検査項目別受託件数

	計	CT	MRI	MMG	US
計	648	344	275	4	25
Big Waffle	487	189	275	2	21
県南センター	161	155	-	2	4

部門別事業報告

Ⅷ 追跡調査結果

胃がん検診追跡調査結果（平成25年度）

肺がん検診追跡調査結果（平成25年度）

子宮頸がん検診追跡調査結果（平成25年度）

乳がん検診追跡調査結果（平成25年度）

大腸がん検診追跡調査結果（平成25年度）

前立腺特異抗原検診追跡調査結果
（平成25年度）

至急連絡による追跡調査結果（平成25年度）

肝炎ウイルス検診実施状況

追跡調査結果

追跡調査は、各種検査で要精密検査と判断したものを確実に医療機関につなぐことと、更なるその診断結果を把握することで健康診断の精度向上をはかることを目的としている。現在、地域保健部門では実施市町村の保健師が精密検査未受診者に直接働きかけ、受診状況の確認および受診勧奨を行っている。また、人間ドック部門では受診後3～4カ月を目安に精密検査未受診者に対して受診確認の文書を送付し、受診状況を把握するとともに受診を勧奨している。これに比較して産業保健部門では事業場等に専門的な知識を持ったスタッフの配置が少ないため、他部門のように精密検査未受診者に対しての調査、受診勧奨が徹底出来ない状況にある。当協会では、受診情報をもとに医療機関へ直接結果を問い合わせるなど、回収率の向上に努めている。

■実施状況

主な検査・検診の平成25年度追跡調査結果を表にした。精密検査受診率は、例年同様女性に比べ男性が高くなっている。また、検診別では肺がん検診が最も高く89.6%、最も低いのが大腸がん検診61.4%と検診により大きな差がみられた。精密検査受診率については、医療機関からの回答率も大きく関係する。地域保健・一日人間ドックについては得られた情報をもとに医療機関に問い合わせるなどして回収率の向上に努めている。

なお、追跡調査の集計において、対象者から精密検査受診の報告があっても、医療機関から診断結果の報告がないものについては未受診者とし、精密検査受診者数には含めていない。

■追跡調査の対象とする条件

- ①～⑭に関してc判定および医師の指示
- ⑮に関して 基準値を越えたものおよび医師の指示
- 健診実施団体が追跡調査実施に同意していること

■追跡調査対象検査項目

- ①胃がん検診（胃部 X 線検査）
- ②肺がん検診（胸部 X 線検査・喀痰細胞診検査）
- ③子宮頸がん検診（子宮内診検査・子宮頸部細胞診検査・子宮体部細胞診検査）
- ④乳がん検診（乳房視触診検査・乳房 X 線検査・乳房超音波検査）
- ⑤大腸がん検診（便潜血反応検査）
- ⑥前立腺特異抗原検診（前立腺特異抗原検査）
- ⑦甲状腺視触診検査・甲状腺超音波検査
- ⑧ AFP 検査
- ⑨腹部超音波検査
- ⑩膀胱超音波検査
- ⑪心臓血管系超音波検査
- ⑫胸部 CT 検査
- ⑬脳 MRI 検査
- ⑭肝炎ウイルス検査
- ⑮血液一般検査・生化学的検査・眼底検査・心電図検査の至急連絡

■追跡調査結果の流れ

1. 対象者に対して、精密検査受診勧奨文書と医療機関宛の紹介状（診断名報告用連絡票を同封）を発行する。
2. 精密検査実施医療機関から診断名などの報告を受ける。
3. 個々に記録を整備し、結果を解析する。

1. 胃がん検診追跡調査結果（平成25年度）

■実施状況

当協会の胃がん検診（胃部X線検査）は、産業保健と一日人間ドックで全体の99%以上を占める。要精密検査率は全体の7.1%、精密検査受診率は69.1%であった。精密検査受診者3,522人のうち、胃がんと診断されたのは49人、うち29人が早期がんであった。がん発見率は0.07%、性別・年代別では60歳～70歳代前半の男性のがん発見率が特に高い。

表1 精密検査受診状況（全体）

区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	精検		
						小計	早期がん	進行がん
計	71,762	5,097	7.1%	3,522	69.1%	49	29	11
地域保健	331	26	7.9%	21	-	0	0	0
産業保健	52,841	3,654	6.9%	2,358	64.5%	32	19	6
一日人間ドック	18,590	1,417	7.6%	1,143	80.7%	17	10	5

表2 性別・年齢階級別精密検査受診状況

年齢区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	精検		
						小計	早期がん	進行がん
計	71,762	5,097	7.1%	3,522	69.1%	49	29	11
男								
～29歳	261	4	1.5%	3	-	0	0	0
30～34	1,139	44	3.9%	28	63.6%	0	0	0
35～39	6,150	222	3.6%	150	67.6%	0	0	0
40～44	7,320	385	5.3%	232	60.3%	0	0	0
45～49	6,864	445	6.5%	266	59.8%	3	1	2
50～54	7,383	601	8.1%	342	56.9%	2	1	1
55～59	6,586	727	11.0%	461	63.4%	9	5	2
60～64	5,319	700	13.2%	472	67.4%	10	8	1
65～69	2,255	291	12.9%	236	81.1%	9	6	0
70～74	1,037	100	9.6%	81	81.0%	4	2	1
75～79	478	71	14.9%	59	83.1%	4	2	1
80歳～	198	16	8.1%	14	-	2	1	1
小計	44,990	3,606	8.0%	2,344	65.0%	43	26	9
女								
～29歳	155	2	1.3%	1	-	0	0	0
30～34	534	20	3.7%	16	-	0	0	0
35～39	3,396	90	2.7%	62	68.9%	0	0	0
40～44	4,534	147	3.2%	108	73.5%	1	1	0
45～49	4,312	194	4.5%	143	73.7%	0	0	0
50～54	4,609	281	6.1%	215	76.5%	0	0	0
55～59	4,032	310	7.7%	241	77.7%	2	1	1
60～64	2,900	245	8.4%	211	86.1%	1	0	0
65～69	1,277	108	8.5%	97	89.8%	1	1	0
70～74	697	62	8.9%	56	90.3%	1	0	1
75～79	244	26	10.7%	23	-	0	0	0
80歳～	82	6	7.3%	5	-	0	0	0
小計	26,772	1,491	5.6%	1,178	79.0%	6	3	2

平成27年8月31日現在

結果	内訳						がん発見率	陽性反応適中度	
	胃がん疑い	胃ポリープ	胃潰瘍	その他	異常なし	不明			
期別不明	9	1	327	149	2,217	779	0	0.07%	1.39%
	0	0	2	1	16	2	0	0%	-
	7	0	196	110	1,470	550	0	0.06%	1.36%
	2	1	129	38	731	227	0	0.09%	1.49%

産業保健その他：食道がん（2）含む
一日人間ドックその他：食道がん（2）含む

結果	内訳						がん発見率	陽性反応適中度	
	胃がん疑い	胃ポリープ	胃潰瘍	その他	異常なし	不明			
期別不明	9	1	327	149	2,217	779	0	0.07%	1.39%
	0	0	0	0	0	3	0	0%	-
	0	0	0	1	10	17	0	0%	-
	0	0	10	10	79	51	0	0%	0%
	0	0	14	16	150	52	0	0%	0%
	0	0	17	10	163	73	0	0.04%	1.13%
	0	0	21	21	222	76	0	0.03%	0.58%
	2	0	25	25	336	66	0	0.14%	1.95%
	1	0	30	21	334	77	0	0.19%	2.12%
	3	0	23	4	164	36	0	0.40%	3.81%
	1	0	12	1	55	9	0	0.39%	4.94%
	1	0	9	2	35	9	0	0.84%	6.78%
	0	0	2	0	8	2	0	1.01%	-
	8	0	163	111	1,556	471	0	0.10%	1.83%
	0	0	0	0	1	0	0	0%	-
	0	0	3	0	6	7	0	0%	-
	0	0	9	0	29	24	0	0%	0%
	0	0	12	3	56	36	0	0.02%	0.93%
	0	0	24	2	74	43	0	0%	0%
	0	0	38	6	123	48	0	0%	0%
	0	0	31	13	136	59	0	0.05%	0.83%
	1	0	24	8	130	48	0	0.03%	0.47%
	0	0	9	3	63	21	0	0.08%	1.03%
	0	1	11	1	25	17	0	0.14%	1.79%
	0	0	2	2	15	4	0	0%	-
	0	0	1	0	3	1	0	0%	-
	1	1	164	38	661	308	0	0.02%	0.51%

男50～54歳その他、男55～59歳その他、男75～79歳その他：食道がん各（1）含む
女75～79歳その他：食道がん（1）含む

（備考）がん発見率（%）＝胃がん数／受診者数×100 陽性反応的中度（%）＝胃がん数／精検受診者数×100

2. 肺がん検診追跡調査結果（平成25年度）

■受診状況

胸部X線検査の要精密検査率は2.7%、精密検査受診率は89.6%であった。精密検査受診者2,486人のうち原発性肺がんは76人、転移性肺がん4人、がん発見率0.07%であった。

【胸部X線検査】

表1 精密検査受診状況（全体）

区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	精密	
						原発性肺がん	転移性肺がん
計	101,991	2,776	2.7%	2,486	89.6%	76	4
地域保健	72,938	2,355	3.2%	2,126	90.3%	65	4
産業保健	8,941	54	0.6%	44	81.5%	3	0
一日人間ドック	20,112	367	1.8%	316	86.1%	8	0

平成27年8月31日現在

検査結果						がん発見率	陽性反応適中度
肺がん疑い	縦隔腫瘍	肺結核	その他	異常なし	不明		
25	3	3	1,533	837	5	0.07%	3.06%
22	3	3	1,354	672	3	0.09%	3.06%
0	0	0	16	24	1	0.03%	6.82%
3	0	0	163	141	1	0.04%	2.53%

地域保健その他：乳がん（1）含む

表2 性別・年齢階級別精密検査受診状況

性別	年齢区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	精密	
							原発性肺がん	転移性肺がん
計		101,991	2,776	2.7%	2,486	89.6%	76	4
男	～39歳	2,474	10	0.4%	10	-	0	0
	40～44	3,328	32	1.0%	23	71.9%	0	0
	45～49	3,379	42	1.2%	33	78.6%	0	0
	50～54	4,194	59	1.4%	38	64.4%	1	0
	55～59	5,133	93	1.8%	80	86.0%	5	0
	60～64	7,606	175	2.3%	141	80.6%	6	0
	65～69	7,072	210	3.0%	184	87.6%	7	0
	70～74	6,694	269	4.0%	242	90.0%	10	0
	75～79	4,944	238	4.8%	215	90.3%	11	0
	80歳～	3,315	236	7.1%	203	86.0%	10	2
小計		48,139	1,364	2.8%	1,169	85.7%	50	2
女	～39歳	1,774	9	0.5%	8	-	0	0
	40～44	3,231	35	1.1%	32	91.4%	0	0
	45～49	3,482	37	1.1%	31	83.8%	1	0
	50～54	4,302	60	1.4%	56	93.3%	1	0
	55～59	6,094	120	2.0%	107	89.2%	3	0
	60～64	10,135	232	2.3%	220	94.8%	7	1
	65～69	8,347	237	2.8%	226	95.4%	4	0
	70～74	7,817	246	3.1%	236	95.9%	5	1
	75～79	5,559	257	4.6%	237	92.2%	2	0
	80歳～	3,111	179	5.8%	164	91.6%	3	0
小計		53,852	1,412	2.6%	1,317	93.3%	26	2

検査結果						がん発見率	陽性反応適中度
肺がん疑い	縦隔腫瘍	肺結核	その他	異常なし	不明		
25	3	3	1,533	837	5	0.07%	3.06%
0	0	1	2	7	0	0%	-
0	0	1	10	12	0	0%	-
0	0	0	13	20	0	0%	0%
0	0	1	20	16	0	0.02%	2.63%
0	0	0	40	35	0	0.10%	6.25%
0	0	0	81	53	1	0.08%	4.26%
5	0	0	124	48	0	0.10%	3.80%
0	0	0	165	67	0	0.15%	4.13%
3	0	0	153	46	2	0.22%	5.12%
6	0	0	148	37	0	0.30%	4.93%
14	0	3	756	341	3	0.10%	4.28%
0	0	0	2	6	0	0%	-
0	0	0	13	19	0	0%	0%
0	0	0	15	15	0	0.03%	3.23%
1	0	0	30	24	0	0.02%	1.79%
2	1	0	62	38	1	0.05%	2.80%
0	0	0	127	84	1	0.07%	3.18%
1	0	0	129	92	0	0.05%	1.77%
1	1	0	141	87	0	0.06%	2.12%
1	1	0	151	82	0	0.04%	0.84%
5	0	0	107	49	0	0.10%	1.83%
11	3	0	777	496	2	0.05%	1.97%

女75～79歳その他：乳がん（1）含む

（備考）がん発見率（%）＝原発性肺がん数／受診者数×100 陽性反応的中度（%）＝原発性肺がん数／精検受診者数×100

【喀痰細胞診検査】

喀痰細胞診検査の要精密検査率は0.1%、精密検査受診者5人であった。そのうち原発性肺がんと診断されたのは3人、がん発見率0.04%であった。

表3 精密検査受診状況

区分	検査人数	肺癌学会基準分類					要精検者数	要精検率	精検受診者数
		A	B	C	D	E			
計	7,772	1,157	6,594	15	4	2	6	0.1%	5
地域保健	2,722	183	2,528	7	3	1	4	0.1%	3
産業保健	3,792	879	2,905	8	0	0	0	0%	0
一日人間ドック	1,258	95	1,161	0	1	1	2	0.2%	2

表4 性別・年齢階級別精密検査受診状況

性別	年齢区分	検査人数	肺癌学会基準分類					要精検者数	要精検率	精検受診者数
			A	B	C	D	E			
計		7,772	1,157	6,594	15	4	2	6	0.1%	5
男	～39歳	403	91	311	1	0	0	0	0%	0
	40～44	697	147	550	0	0	0	0	0%	0
	45～49	753	150	602	1	0	0	0	0%	0
	50～54	1,032	150	880	2	0	0	0	0%	0
	55～59	1,032	133	895	4	0	0	0	0%	0
	60～64	1,013	70	942	1	0	0	0	0%	0
	65～69	820	48	768	2	1	1	2	0.2%	1
	70～74	632	39	591	0	2	0	2	0.3%	2
	75～79	313	24	286	2	1	0	1	0.3%	1
	80歳～	188	13	173	1	0	1	1	0.5%	1
小計		6,883	865	5,998	14	4	2	6	0.1%	5
女	～39歳	81	36	45	0	0	0	0	0%	0
	40～44	160	67	93	0	0	0	0	0%	0
	45～49	147	61	86	0	0	0	0	0%	0
	50～54	148	52	95	1	0	0	0	0%	0
	55～59	153	49	104	0	0	0	0	0%	0
	60～64	107	18	89	0	0	0	0	0%	0
	65～69	43	3	40	0	0	0	0	0%	0
	70～74	26	1	25	0	0	0	0	-	0
	75～79	16	5	11	0	0	0	0	-	0
	80歳～	8	0	8	0	0	0	0	-	0
小計		889	292	596	1	0	0	0	0%	0

平成27年8月31日現在

精検受診率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応適中度
	原発性肺がん	転移性肺がん	肺がん疑い	その他	異常なし	不明		
-	3	0	0	2	0	0	0.04%	-
-	2	0	0	1	0	0	0.07%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	1	0	0	1	0	0	0.08%	-

精検受診率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応適中度
	原発性肺がん	転移性肺がん	肺がん疑い	その他	異常なし	不明		
-	3	0	0	2	0	0	0.04%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	1	0	0	0	0	0	0.12%	-
-	1	0	0	1	0	0	0.16%	-
-	0	0	0	1	0	0	0%	-
-	1	0	0	0	0	0	0.53%	-
-	3	0	0	2	0	0	0.04%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
0	0	0	0	0	0	0	0%	-

(備考) がん発見率(%) = 原発性肺がん数 / 受診者数 × 100 陽性反応の適中度(%) = 原発性肺がん数 / 精検受診者数 × 100

3. 子宮頸がん検診（頸部細胞診検査）追跡調査結果（平成25年度）

■実施状況

頸部細胞診検査の要精密検査率は1.1%、精密検査受診率は78.8%であった。精密検査受診者212人のうち子宮頸がんと診断されたのは7人、うち6人は早期がんであった。要精密検査率が高いのは20歳～30歳代、がん発見率が高いのは30歳代前半であった。

表1 精密検査受診状況（全体）

区分	検査人数	細胞診クラス分類									要精検者数	要精検率
		I	II	II b	III a	III	III b	IV	V	判定不能		
計	19,865	509	19,144	0	170	15	12	12	3	0	212	1.1%
地域保健	3,091	84	2,981	0	20	2	2	2	0	0	26	0.8%
産業保健	9,787	227	9,411	0	120	12	8	7	2	0	149	1.5%
一日人間ドック	6,987	198	6,752	0	30	1	2	3	1	0	37	0.5%

表2 年齢階級別精密検査受診状況

年齢区分	検査人数	細胞診クラス分類									要精検者数	要精検率
		I	II	II b	III a	III	III b	IV	V	判定不能		
計	19,865	509	19,144	0	170	15	12	12	3	0	212	1.1%
～24歳	483	15	449	0	18	0	0	1	0	0	19	3.9%
25～29	784	22	735	0	24	2	1	0	0	0	27	3.4%
30～34	1,222	32	1,154	0	26	2	3	4	1	0	36	2.9%
35～39	2,157	54	2,064	0	28	4	4	2	1	0	39	1.8%
40～44	2,729	87	2,605	0	32	1	3	1	0	0	37	1.4%
45～49	2,463	97	2,333	0	28	3	0	2	0	0	33	1.3%
50～54	2,650	93	2,543	0	10	2	1	1	0	0	14	0.5%
55～59	2,491	46	2,443	0	0	1	0	1	0	0	2	0.1%
60～64	2,293	24	2,264	0	4	0	0	0	1	0	5	0.2%
65～69	1,330	17	1,313	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
70～74	856	16	840	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
75～79	312	5	307	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
80歳～	95	1	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0%

平成27年8月31日現在

精検受診者数	精検受診率	精密検査結果									がん発見率	陽性反応適中度
		子宮頸がん			子宮頸がんの疑い	子宮体がん	異形成	その他	異常なし	不明		
		小計	早期がん	進行がん								
167	78.8%	7	6	1	0	1	111	25	22	1	0.04%	4.19%
23	-	1	1	0	0	0	16	2	4	0	0.03%	-
112	75.2%	5	5	0	0	0	76	19	11	1	0.05%	4.46%
32	86.5%	1	0	1	0	1	19	4	7	0	0.01%	3.13%

精検受診者数	精検受診率	精密検査結果									がん発見率	陽性反応適中度
		子宮頸がん			子宮頸がんの疑い	子宮体がん	異形成	その他	異常なし	不明		
		小計	早期がん	進行がん								
167	78.8%	7	6	1	0	1	111	25	22	1	0.04%	4.19%
15	-	0	0	0	0	0	9	4	1	1	0%	-
23	-	1	1	0	0	0	19	3	0	0	0.13%	-
31	86.1%	2	1	1	0	0	20	4	5	0	0.16%	6.45%
30	76.9%	1	1	0	0	0	23	4	2	0	0.05%	3.33%
30	81.1%	2	2	0	0	0	20	2	6	0	0.07%	6.67%
23	69.7%	0	0	0	0	0	13	5	5	0	0%	-
11	-	1	1	0	0	0	5	3	2	0	0.04%	-
0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
4	-	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0%	-
0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%	-

（備考）がん発見率（%）＝子宮頸がん数／受診者数 × 100 陽性反応の中度（%）＝子宮頸がん数／精検受診者数 × 100

4. 乳がん検診追跡調査結果（平成25年度）

■実施状況

乳がん検診の要精密検査率は2.2%、精密検査受診率は89.6%であった。精密検査受診者476人のうち乳がんと診断されたのは45人、うち28人が早期がんであった。年代別でがん発見率が高いのは40歳代から60歳代にかけてと幅が広い。がん発見率は0.19%であった。

表1 精密検査受診状況（全体）

表1-1 視触診・乳房X線・超音波検査の単独及び併用方式

区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	乳がん	
						小計	早期がん
計	24,102	531	2.2%	476	89.6%	45	28
地域保健	6,402	173	2.7%	162	93.6%	11	6
産業保健	9,593	197	2.1%	174	88.3%	19	13
一日人間ドック	8,107	161	2.0%	140	87.0%	15	9

表1-2 視触診・乳房X線併用方式

区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	乳がん	
						小計	早期がん
計	15,850	326	2.1%	286	87.7%	33	24
地域保健	2,527	28	1.1%	26	-	3	3
産業保健	5,890	150	2.5%	130	86.7%	15	12
一日人間ドック	7,433	148	2.0%	130	87.8%	15	9

表2 年齢階級別精密検査受診状況

表2-1 全体（視触診・乳房X線・超音波検査の単独検診及び併用検診の合計）

年齢区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	乳がん	
						小計	早期がん
計	24,102	531	2.2%	476	89.6%	45	28
～29歳	354	6	1.7%	6	-	0	0
30～34	576	5	0.9%	4	-	1	0
35～39	1,569	30	1.9%	26	86.7%	1	0
40～44	3,645	120	3.3%	105	87.5%	6	5
45～49	3,423	102	3.0%	89	87.3%	9	3
50～54	3,701	103	2.8%	91	88.3%	6	4
55～59	3,387	59	1.7%	52	88.1%	9	7
60～64	3,260	47	1.4%	44	93.6%	6	4
65～69	2,016	27	1.3%	27	-	5	3
70歳～	2,171	32	1.5%	32	100.0%	2	2

表2-2 視触診・乳房X線併用方式

年齢区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	乳がん	
						小計	早期がん
計	15,850	326	2.1%	286	87.7%	33	24
～29歳	16	0	-	0	-	0	0
30～34	32	0	0%	0	-	0	0
35～39	446	14	3.1%	11	-	1	0
40～44	2,399	69	2.9%	55	79.7%	5	5
45～49	2,377	76	3.2%	64	84.2%	9	3
50～54	2,714	74	2.7%	66	89.2%	5	4
55～59	2,521	37	1.5%	34	91.9%	6	6
60～64	2,413	25	1.0%	25	-	4	3
65～69	1,447	14	1.0%	14	-	1	1
70歳～	1,485	17	1.1%	17	-	2	2

平成27年8月31日現在

乳がん 早期がん比率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応 適中度
	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	異常なし	不明		
62.2%	1	63	36	216	114	1	0.19%	9.45%
-	0	33	10	68	40	0	0.17%	6.79%
-	1	22	15	72	44	1	0.20%	10.92%
-	0	8	11	76	30	0	0.19%	10.71%

乳がん 早期がん比率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応 適中度
	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	異常なし	不明		
72.7%	1	22	19	136	74	1	0.21%	11.54%
-	0	2	2	14	5	0	0.12%	-
-	1	13	8	51	41	1	0.25%	11.54%
-	0	7	9	71	28	0	0.20%	11.54%

乳がん 早期がん比率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応 適中度
	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	異常なし	不明		
62.2%	1	63	36	216	114	1	0.19%	9.45%
-	0	1	2	2	1	0	0%	-
-	0	0	0	1	2	0	0.17%	-
-	0	5	6	10	4	0	0.06%	-
-	0	17	8	51	23	0	0.16%	5.71%
-	0	8	7	46	18	1	0.26%	10.11%
-	1	10	5	46	23	0	0.16%	6.59%
-	0	4	1	22	16	0	0.27%	17.31%
-	0	5	2	17	14	0	0.18%	13.64%
-	0	6	3	9	4	0	0.25%	-
-	0	7	2	12	9	0	0.09%	6.25%

乳がん 早期がん比率	精密検査結果						がん発見率	陽性反応 適中度
	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	異常なし	不明		
72.7%	1	22	19	136	74	1	0.21%	11.54%
-	0	0	0	0	0	0	-	-
-	0	0	0	0	0	0	0%	-
-	0	1	3	2	4	0	0.22%	-
-	0	5	4	29	12	0	0.21%	9.09%
-	0	6	5	32	11	1	0.38%	14.06%
-	1	6	3	32	19	0	0.18%	7.58%
-	0	1	0	15	12	0	0.24%	17.65%
-	0	0	1	11	9	0	0.17%	-
-	0	2	1	7	3	0	0.07%	-
-	0	1	2	8	4	0	0.13%	-

（備考）がん発見率（%）＝乳がん数／受診者数×100 陽性反応の中度（%）＝乳がん数／精検受診者数×100

5. 大腸がん検診追跡調査結果（平成25年度）

■実施状況

大腸がん検診（便潜血検査）の要精密検査率は5.5%、精密検査受診率はがん検診の中でも最も低く61.4%であった。部門別では地域保健は83.4%、産業保健53.9%、一日人間ドック67.6%であった。精密検査受診者3,432人のうち大腸がんと診断されたのは115人、うち62人は早期がんであった。がん発見率は0.11%であった。

表1 精密検査受診状況（全体）

区分	検査人数	要精密検査者数	要精密検査率	精 検 受診者数	精検受診率	精 検			
						大 腸 が ん			
						小計	早期がん	進行がん	期別不明
計	101,834	5,592	5.5%	3,432	61.4%	115	62	38	15
地域保健	12,453	859	6.9%	716	83.4%	25	14	8	3
産業保健	70,067	3,535	5.0%	1,906	53.9%	58	29	21	8
一日人間ドック	19,314	1,198	6.2%	810	67.6%	32	19	9	4

表2 性別・年齢階級別精密検査受診状況

性別	年齢区分	検査人数	要精密検査者数	要精密検査率	精 検 受診者数	精検受診率	精 検			
							大 腸 が ん			
							小計	早期がん	進行がん	期別不明
計		101,834	5,592	5.5%	3,432	61.4%	115	62	38	15
男	～39歳	9,769	396	4.1%	214	54.0%	1	1	0	0
	40～44	9,331	349	3.7%	189	54.2%	1	0	1	0
	45～49	8,600	408	4.7%	203	49.8%	1	0	0	1
	50～54	9,418	526	5.6%	264	50.2%	11	5	4	2
	55～59	9,236	655	7.1%	373	56.9%	16	7	8	1
	60～64	7,478	616	8.2%	363	58.9%	18	8	7	3
	65～69	3,582	277	7.7%	185	66.8%	4	2	0	2
	70～74	2,110	199	9.4%	154	77.4%	7	6	1	0
	75～79	1,276	140	11.0%	115	82.1%	8	7	1	0
	80歳～	722	77	10.7%	60	77.9%	3	3	0	0
小計		61,522	3,643	5.9%	2,120	58.2%	70	39	22	9
女	～39歳	5,448	253	4.6%	130	51.4%	3	2	0	1
	40～44	5,628	246	4.4%	125	50.8%	4	3	0	1
	45～49	5,432	258	4.7%	153	59.3%	3	3	0	0
	50～54	6,279	255	4.1%	162	63.5%	6	3	2	1
	55～59	6,057	280	4.6%	196	70.0%	3	1	1	1
	60～64	4,821	246	5.1%	190	77.2%	9	5	3	1
	65～69	2,705	145	5.4%	122	84.1%	2	1	1	0
	70～74	2,058	119	5.8%	103	86.6%	5	1	4	0
	75～79	1,268	94	7.4%	83	88.3%	3	2	1	0
	80歳～	616	53	8.6%	48	90.6%	7	2	4	1
小計		40,312	1,949	4.8%	1,312	67.3%	45	23	16	6

平成27年8月31日現在

結 果	内 訳									がん 発見率	陽性反応 適中度
	大腸がん 疑い	ポリープ	クローン病	潰瘍性 大腸炎	大腸憩室	痔疾患	その他の 疾患	異常なし	不 明		
	2	1,478	2	34	182	431	95	1,022	71	0.11%	3.35%
	2	324	0	1	50	85	24	193	12	0.20%	3.49%
	0	808	2	26	76	222	48	622	44	0.08%	3.04%
	0	346	0	7	56	124	23	207	15	0.17%	3.95%

結 果	内 訳									がん 発見率	陽性反応 適中度
	大腸がん 疑い	ポリープ	クローン病	潰瘍性 大腸炎	大腸憩室	痔疾患	その他の 疾患	異常なし	不 明		
	2	1,478	2	34	182	431	95	1,022	71	0.11%	3.35%
	0	60	1	4	4	37	5	95	7	0.01%	0.47%
	0	68	0	5	9	27	6	68	5	0.01%	0.53%
	0	84	0	7	9	23	8	68	3	0.01%	0.49%
	0	141	1	4	15	26	6	56	4	0.12%	4.17%
	0	215	0	2	28	27	13	68	4	0.17%	4.29%
	0	221	0	3	18	34	7	60	2	0.24%	4.96%
	1	106	0	0	17	17	5	32	3	0.11%	2.16%
	0	89	0	0	14	15	1	26	2	0.33%	4.55%
	0	54	0	1	12	12	7	20	1	0.63%	6.96%
	1	37	0	0	5	3	0	7	4	0.42%	5.00%
	2	1,075	2	26	131	221	58	500	35	0.11%	3.30%
	0	23	0	3	3	20	2	73	3	0.06%	2.31%
	0	28	0	1	5	23	3	54	7	0.07%	3.20%
	0	38	0	2	8	21	7	70	4	0.06%	1.96%
	0	49	0	0	1	27	5	67	7	0.10%	3.70%
	0	70	0	0	4	29	6	81	3	0.05%	1.53%
	0	58	0	0	11	32	4	70	6	0.19%	4.74%
	0	42	0	1	7	20	5	42	3	0.07%	1.64%
	0	40	0	1	8	16	1	30	2	0.24%	4.85%
	0	36	0	0	3	16	2	22	1	0.24%	3.61%
	0	19	0	0	1	6	2	13	0	1.14%	14.58%
	0	403	0	8	51	210	37	522	36	0.11%	3.43%

（備考）がん発見率（%）＝大腸がん数／受診者数×100 陽性反応の適中度（%）＝大腸がん数／精検受診者数×100

6. 前立腺特異抗原(PSA)検査追跡調査結果(平成25年度)

■実施状況

前立腺特異抗原(PSA)検査の要精密検査率は5.3%、精密検査受診率は74.8%であった。精密検査受診者1,934人のうち前立腺がんは235人で、精密検査受診者の12.2%にあたる。このうち早期がんは155人であった。がん発見率は0.48%とがん検診の中では最も高かった。

表1 精密検査受診状況(全体)

区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	前立腺がん		
						小計	早期がん	進行がん
						計	49,177	2,586
地域保健	29,545	1,839	6.2%	1,443	78.5%	181	115	21
産業保健	11,470	354	3.1%	230	65.0%	21	15	1
一日人間ドック	8,162	393	4.8%	261	66.4%	33	25	4

表2 年齢階級別精密検査受診状況

年齢区分	検査人数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	前立腺がん		
						小計	早期がん	進行がん
						計	49,177	2,586
～39歳	283	0	0%	0	-	0	0	0
40～44	386	1	0.3%	0	-	0	0	0
45～49	973	12	1.2%	9	-	0	0	0
50～54	7,615	152	2.0%	107	70.4%	6	4	1
55～59	8,186	232	2.8%	149	64.2%	15	11	1
60～64	8,868	414	4.7%	296	71.5%	38	27	3
65～69	8,134	472	5.8%	353	74.8%	51	40	4
70～74	7,250	548	7.6%	431	78.6%	67	47	7
75～79	4,766	433	9.1%	337	77.8%	33	20	6
80歳～	2,716	322	11.9%	252	78.3%	25	6	4

平成27年8月31日現在

精密検査結果	精密検査結果						がん発見率	陽性反応適中度	
	前立腺がん疑い	前立腺肥大症	前立腺炎	その他	異常なし	不明			
	期別不明	54	48	992	67	34			360
	45	36	763	36	24	260	143	0.61%	12.54%
	5	3	107	17	3	51	28	0.18%	9.13%
	4	9	122	14	7	49	27	0.40%	12.64%

精密検査結果	精密検査結果						がん発見率	陽性反応適中度	
	前立腺がん疑い	前立腺肥大症	前立腺炎	その他	異常なし	不明			
	期別不明	54	48	992	67	34			360
	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
	0	0	0	0	0	0	0	0%	-
	0	1	1	1	0	5	1	0%	-
	1	4	39	10	1	33	14	0.08%	5.61%
	3	7	59	12	3	36	17	0.18%	10.07%
	8	7	130	18	7	62	34	0.43%	12.84%
	7	3	184	10	6	68	31	0.63%	14.45%
	13	12	228	10	5	63	46	0.92%	15.55%
	7	8	200	4	2	56	34	0.69%	9.79%
	15	6	151	2	10	37	21	0.92%	9.92%

(備考) がん発見率(%) = 前立腺がん数 / 受診者数 × 100 陽性反応の適中度(%) = 前立腺がん数 / 精検受診者数 × 100

7. 至急連絡による追跡調査結果（平成25年度）

表1 部門別・項目別至急連絡追跡調査結果

平成27年8月31日現在

表1-1 地域保健部門

検査項目	基準値	受診者数	精検対象者数	回答数	診断名内訳（重複回答あり）			
肝機能	AST:200U/l以上 ALT:200U/l以上	104,949	63 (0.06%)	57 (90.5%)	アルコール性肝障害 (13) 急性肝炎 (4) 肝炎 (1) 前立腺がん (1)	脂肪肝 (11) 慢性肝炎 (4) 薬剤性肝炎 (1) 膵臓がん (1)	薬剤性肝障害 (疑い含) (7) アルコール性肝炎 (3) アルコール性肝硬変 (1) 特記所見なし (1)	肝機能障害 (6) 胆のう結石 (2) 非アルコール性脂肪性肝炎疑い (1)
ALP	1,000U/l以上	-	1	1 (100.0%)	その他の病変 (1)			
腎機能	Cre:4.0mg/dl以上	67,810	4 (0.01%)	3 (75.0%)	慢性腎不全等 (3)	糖尿病性腎症 (1)		
尿酸	UA:11.0mg/dl以上	52,579	17 (0.03%)	14 (82.4%)	高尿酸血症 (13) 慢性心不全 (2) 脂肪肝 (1)	脂質異常症 (3) 高血圧 (1) うっ血性心不全 (1)	糖尿病 (3) 高血圧性心疾患 (1) 慢性腎不全 (1)	慢性肝炎 (2) アルコール性肝障害 (1)
血糖	空腹時:300mg/dl以上 随時:400mg/dl以上	104,642	54 (0.05%)	39 (72.2%)	糖尿病 (37) 高血圧 (1)	脂質異常症 (2) 脂肪肝 (1)	アルコール性肝障害 (1)	肝機能障害 (1)
貧血	RBC:200×10 ⁴ /uℓ以下 Hb:7.0g/dl以下 Ht:25%以下	59,355	35 (0.06%)	27 (77.1%)	鉄欠乏性貧血 (12) 大球性貧血 (1) 急性白血病 (1) 腹部腫瘍 (1) 心房細動 (1)	腎性貧血 (4) 遺伝性球状赤血球症 (1) 白血球減少症 (1) 大腸ポリープ (1) 胸水貯留 (1)	貧血 (3) 真性赤血球増加症 (1) 骨髄異形成症候群 (1) 慢性腎不全 (1)	正球性正色素性貧血 (1) 汎血球減少症 (1) 胃がん (1) 心不全 (1)
白血球	医師の判断	-	13	12 (92.3%)	慢性骨髄増殖症候群 (2) 急性骨髄性白血病 (1) 本態性血小板血症疑い (1)	慢性リンパ性白血病 (1) 白血球増多症 (1) 大腸がん (1)	Tリンパ芽球性白血病 (1) 好中球減少症 (1) 大腸ポリープ (1)	ヘアリー細胞白血病 (1) 骨髄線維症 (1)
血小板	医師の判断	-	9	8 (88.9%)	特発性血小板減少性紫斑病 (疑い含) (4)	血小板増加症 (1)	骨髄性異形成症候群 (1)	本態性血小板血症 (1)
心電図	医師の判断	58,756	21 (0.04%)	21 (100.0%)	陳旧性心筋梗塞 (4) 虚血性心疾患 (1) 上室性期外収縮 (1) 僧帽弁閉鎖不全症 (1) 心のう液 (1)	心房細動 (発作性含) (4) 無症候性心筋虚血 (1) 心室性期外収縮 (1) 肺動脈弁閉鎖不全症 (1) 洞性徐脈 (1)	心房粗細動 (発作性含) (2) 第2度房室ブロック (1) ST下降 (1) 洞不全症候群疑い (1) その他の所見 (1)	心房粗動 (1) 完全房室ブロック (1) 大動脈弁狭窄症 (1) 拡張型心筋症疑い (1)
眼底	医師の判断	47,320	21 (0.04%)	19 (90.5%)	網膜静脈分枝閉塞症 (6) 高血圧性網膜症 (1) 白内障 (1)	糖尿病網膜症 (4) 眼底出血 (1) 黄斑症 (1)	緑内障 (4) 視神経乳頭陥凹 (1) 加齢性黄斑変性 (1)	網膜中心静脈閉塞症 (2) 後部硝子体網膜牽引症候群 (1)
胸部X線	医師の判断	-	3	3 (100.0%)	自然気胸 (1)	胃潰瘍瘢痕 (1)	処置不要 (1)	
乳房X線	医師の判断	-	7	6 (85.7%)	乳がん (4)	乳腺腫 (1)	乳房異常石灰化 (1)	

検査項目	基準値	受診者数	精検対象者数	回答数	診断名内訳（重複回答あり）			
肝機能	AST:200U/l以上 ALT:200U/l以上	190,658	173 (0.09%)	123 (71.1%)	脂肪肝（疑い含）(57) 糖尿病（境界型含）(11) 慢性肝炎（5） 高血圧（3） 肝炎（1） 肝のう胞（1） EBウイルス感染症（1）	肝機能障害（22） 薬剤性肝障害（疑い含）(7) 非アルコール性脂肪肝疾患等（4） 急性肝炎（疑い含）(2) 脂肪性肝炎疑い（1） 胆のう結石（1） その他の病変（2）	アルコール性肝障害（疑い含）(18) 高尿酸血症（6） B型慢性肝炎（3） 肥満症（2） アルコール性脂肪肝（1） 腎臓結石（1） 特記所見なし（3）	脂質異常症（13） C型慢性肝炎（5） アルコール性肝炎等（3） 胆のうポリープ（2） アルコール性肝硬変（1） 膵管内乳頭粘液性腫瘍（1）
ALP	1,000U/l以上	-	10	6 (60.0%)	胆管がん（1） 肝機能障害（1）	高ALP血症（1） その他の病変（1）	総胆管結石（1）	胆のうポリープ（1）
腎機能	Cre:4.0mg/dl以上	106,321	4 (0.00%)	4 (100.0%)	慢性腎不全等（3） 高血圧（1）	糖尿病性腎症（1） 心不全（1）	腎性貧血（1）	ネフローゼ症候群（1）
尿酸	UA:11.0mg/dl以上	110,084	31 (0.03%)	23 (74.2%)	高尿酸血症（22） アルコール性肝障害（1） 高血圧（1）	脂質異常症等（3） 肝機能障害（1） 全身性エリテマトーデス（1）	痛風（1） 脂肪肝（1）	慢性肝炎（1） 腎臓結石（1）
血糖	空腹時:300mg/dl以上 随時:400mg/dl以上	137,449	68 (0.05%)	43 (63.2%)	糖尿病（41） 肝機能障害（2） 無気肺（1）	脂質異常症等（9） 糖尿病性腎症（1） その他の病変（1）	脂肪肝（疑い含）(4) 糖尿病網膜症（1）	高血圧（4） 十二指腸潰瘍（1）
貧血	RBC:200×10 ⁴ /ul以下 Hb:7.0g/dl以下 Ht:25%以下	190,238	107 (0.06%)	81 (75.7%)	鉄欠乏性貧血（60） 過多月経（3） 粘膜下筋腫（1） 大腸がん（1）	子宮筋腫（11） 低色素性貧血症（2） 付属器腫瘍（1） 直腸がん（1）	貧血（8） 腎性貧血（1） 月経困難症（1） 大腸炎（1）	子宮腺筋腫症（疑い含）(4) 卵巣腫瘍（1） 骨髄異形成症候群（1） 心不全疑い（1）
白血球	医師の判断	-	20	16 (80.0%)	急性扁桃炎（3） 骨髄異形成症候群（1） 好酸球増加症（1） 急性気管支炎（1）	慢性骨髄性白血病（2） 白血球減少症（1） 鉄欠乏性貧血（1）	急性骨髄性白血病疑い（1） 白血球増加（1） 真性多血症（1）	骨髄線維症（1） 好中球減少症（1） 真性赤血球増加症（1）
血小板	医師の判断	-	4	3 (75.0%)	特発性血小板減少性紫斑病（2）		血小板増加症（1）	
心電図	医師の判断	181,258	22 (0.01%)	19 (86.4%)	心房粗動（3） 完全房室ブロック（2） うっ血性心不全（1）	陳旧性心筋梗塞（疑い含）(3) 高度房室ブロック（1） 発作性心房粗細動（1）	狭心症（労作性含）(3) 洞房ブロック（1） 心電図異常（1）	心室性期外収縮（2） 洞不全症候群（1） その他（2）
眼底	医師の判断	52,652	12 (0.02%)	8 (66.7%)	網膜静脈分枝閉塞症（3） 緑内障（1）	眼底出血（2） 網膜細動脈瘤疑い（1）	網膜動脈硬化症（1） 特記所見なし（1）	視神経線維欠損（1）
胸部X線	医師の判断	-	6	6 (100.0%)	自然気胸（5）	気腫性のう胞（2）	慢性閉塞性肺疾患（2）	陳旧性病変（1）
胃部X線	医師の判断	-	42	35 (83.3%)	胃潰瘍癒痕（12） 胃ポリープ（2） 胃炎（萎縮性含）(1)	胃潰瘍（8） 逆流性食道炎（2） ヘリコバクター・ピロリ感染症（1）	胃がん（5） 食道粘膜下腫瘍（1） 十二指腸潰瘍癒痕（1）	慢性胃炎（4） バレット食道（1） 特記所見なし（4）
腹部超音波	医師の判断	-	3	3 (100.0%)	胃がん（1）	腎細胞がん（1）	腎のう胞（1）	
乳房X線	医師の判断	-	3	3 (100.0%)	乳がん（早期）(3)			

8. 肝炎ウイルス検診実施状況

当協会は国の肝炎対策事業が開始される以前から、健康診断に肝炎検査を導入し、HCV 検診は1993年から、HBs 抗原・抗体検査は1977年から実施している。2002年4月からは国の5カ年計画によるC型肝炎等緊急総合対策が実施された。その後も健康増進法に基づき肝炎ウイルス検診を推進している。

また、岩手県は肝炎総合対策「肝炎総合対策肝炎治療7カ年計画」に基づき、2007年に「岩手県肝炎対策協議会」を設置し、肝疾患診療ネットワークの整備やインターフェロン治療費公費助成制度などキャリアへの診療体制の充実や岩手県肝炎対策計画の策定（第2期計画 平成25年3月）など肝炎対策に取り組んでいる。保健所における無料検査に加え、肝疾患診療ネットワークに所属する専門医療機関（16機関）や肝炎かかりつけ医（69施設）においても無料で肝炎ウイルス検査が受けられるように手続きを簡素化し、受診機会の拡大を図っている。国は平成23年度から地域の企業を対象に職場などに出向いての肝炎検査（出前検診）への補助事業を進めており、当協会は岩手県よりこの事業を受託し、受診率の低い職域の受診率向上に努めている。

一方、発見されずに潜在する肝炎ウイルスキャリア発見のための肝炎ウイルス検査の促進や発見されたキャリアの治療促進等の支援や相談を行う岩手県地域肝疾患アドバイザーの養成研修会を岩手県から委託を受けるなど潜在するキャリアを見つけることにとどまらず、キャリアへの適切な指導まで一貫した肝炎対策の推進に努めている。

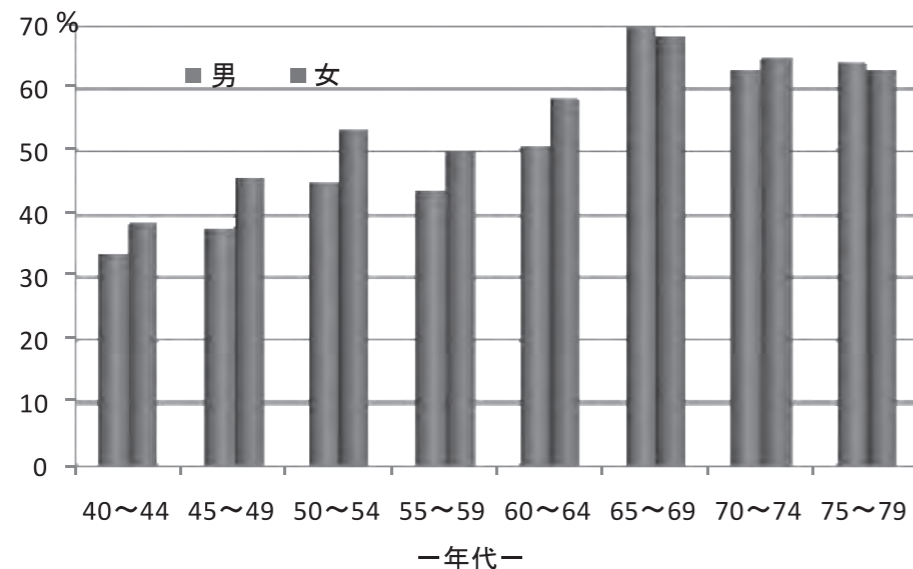
■ HCV 検診受診率

当協会では1996年から HCV 抗体検査に加え HCV 抗原検査や HCV-RNA 検査を導入し、国の推奨する検査手順で HCV 検査を実施してきた。1996年4月から2015年3月までの HCV 検査初回受診者数は466,098人で、2014年度は新たに35,565人が HCV 検診を受診した。

40～79歳の検診受診率は53.2%（374,193人／703,057人）で、男性50.33%、女性55.86%であった。60～79歳の受診率は高く50%を越える受診率であった。しかし、40～44歳では、男性33.9%、女性38.41%と低率であった（図1）。

男性の受診率が女性に比べ低く、また若年者の受診率が低い点については職域検診への導入が遅れていることが原因と推測された。新たに H23年度から導入された国の企業を対象に職場などに出向いての肝炎検査（出前検診）の活用を進めている。

図1 岩手県の人口に対する HCV 検診受診率

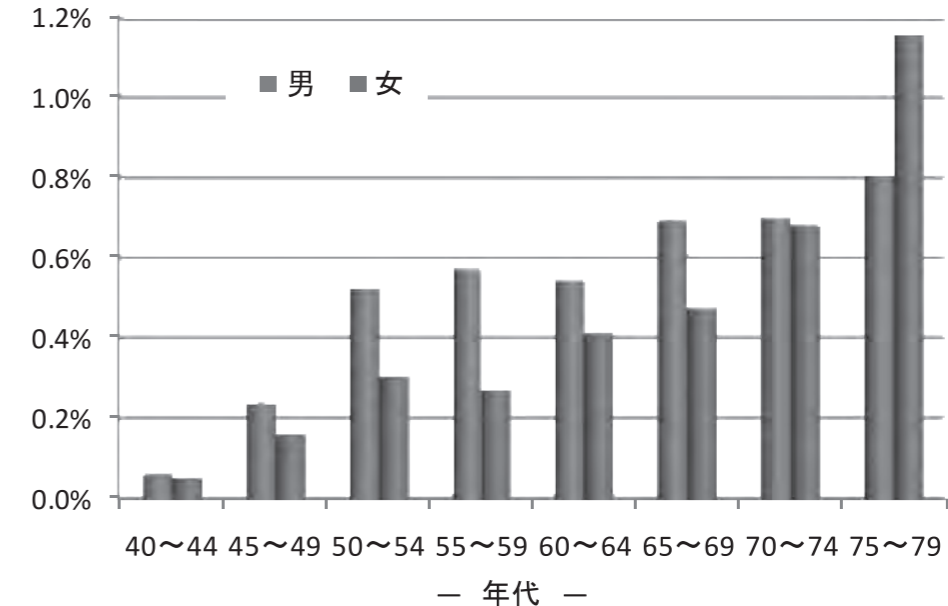


(岩手県の人口：2010年10月の国勢調査による)

■ HCV キャリア数

1996年4月～2015年3月までに、2,945人（0.63%）の HCV キャリアを発見した。図2に示すとおり、HCV キャリア率は高齢者ほど高率であった。80歳以上の群では1.50%であったものが40～44歳群で0.06%にまで低下していた。更に、39歳以下の群の HCV キャリア率は0.05%と極めて低率になった。性・年代別 HCV キャリア率から、岩手県の40～79歳の HCV キャリア数は4,429人と算出された。

図2 性・年代別 HCV キャリア率

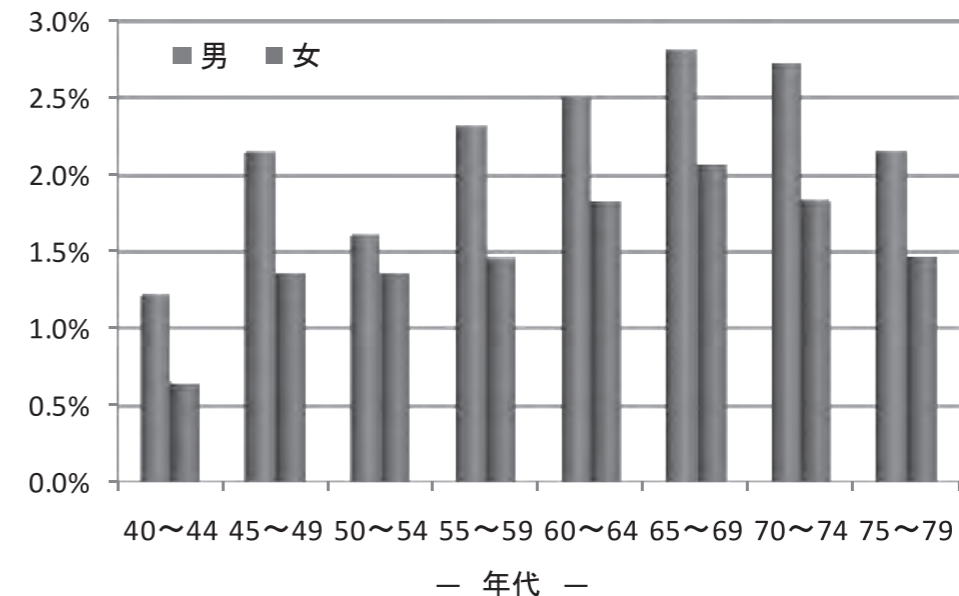


■ HBs 抗原陽性者数

1986年～2015年3月までに HBs 抗原検査を受診した初回受診者数は562,836人で11,044人（1.96%）の HBs 抗原陽性者が発見された。男性の HBs 抗原陽性率は2.31%、女性は1.68%であり、すべての年代において男性の HBs 抗原陽性率が女性に比べ高率であった。HBs 抗原陽性率のピークは団塊の世代に認められ男性は65歳～69歳で2.81%、女性は65歳～69歳で2.08%であった（図3）。

性・年代別 HBs 抗原陽性率から岩手県の40～79歳の HBs 抗原陽性者は13,780人と算出された。

図3 性・年代別 HBs 抗原陽性率



■ HCV キャリアの追跡調査

当協会では検診で発見されたキャリアに対して、はがきによる医療機関受診調査を実施し、医療機関受診が確認された方について、1996年から医療機関を通じてアンケートによる追跡調査を行っている。

今年度は2014年1月～2015年3月に発見されたHCVキャリアを加えた調査を行い、2015年8月までに医療機関から頂いた回答を集計した。

検診によって初めてHCVキャリアであることが明らかになった方はキャリア全体の63.4%と検診により潜在するキャリアを発見しており、検診が有効に機能している。

1) 医療機関受診率

検診で発見されたHCVキャリアの医療機関受診率は64.1%であった。

医療機関を受診したHCVキャリアのうち、2014年度調査で「定期的通院」をしている方は37.8%であった。「不定期受診」や「他医療機関に紹介」された方6.1%を加え、継続的に医療機関の管理を受けているHCVキャリアは43.9%と考えられた。一方、一度は医療機関を受診したものの、その後「来院せず」との回答が34.7%であった。

これらから検診後の医療機関受診率が約6割であり、その内医療機関の管理下にある方が約4割であることから実際に定期受診・不定期受診など継続して医療機関の管理下にある者は発見したキャリアの3割にとどまっていると推測された。「来院せず」との回答は50歳未満にもっとも多くみられた(図5・6)。

2) 治療と診断名

① インターフェロン、DAAs 治療

2014年度調査に回答があった567人中、インターフェロン治療有は308人であった。治療群を年代別にみると50歳代で30.5%、60歳代で28.9%であった。

また、2014年からDAAs治療が開始され、インターフェロン治療よりも実施年齢が高く60歳代で32.7%、70歳代で30.9%に実施しており80歳代への使用もみられた。

② インターフェロン未治療の理由

2014年度調査でインターフェロン未治療理由に回答のあった337人について年代別に最も多い理由は、若い世代では「家庭・仕事の都合」と自身の理由が多く、70歳以上では「高齢」と医師の判断による理由が多かった。(図4)

③ 治療と臨床診断名の変化

2014年度調査で初診時と経過観察時(最近)の臨床診断名の回答を頂き、12ヶ月以上臨床的な経過の追跡ができたHCVキャリアは490人で、平均観察期間は11.3±5.7年であった(図5)。

初診時の臨床診断名は、慢性肝炎が最も多く72.0%で、次いで無症候性キャリア23.9%、肝硬変3.1%、肝細胞癌が0.8%であった。肝細胞癌と診断されたのは4人で、うち3人は検診によりキャリアと判定され初めて医療機関を受診された方であった。

また、初診時と経過観察時(最近)の治療について回答のあった375名の治療状況をみると、初診時無症候性キャリアと診断された90名の内77名(85.6%)が経過観察であった。慢性肝炎267名では、経過観察105名(39.3%)、肝庇護療法87名(32.6%)であった。肝硬変12名では肝庇護療法8名(66.7%)、強力ミノファージェン2名(16.7%)であった。インターフェロン治療は無症候性キャリアの3.3%、慢性肝炎の17.2%、肝硬変の8.3%に実施されていた。

経過観察時(最近)の臨床診断名は、慢性肝炎が51.2%、無症候性キャリアが15.4%、肝硬変が8.8%、肝細胞癌が6.4%と初診時に比べ無症候性キャリアや慢性肝炎は減少し、肝硬変、肝細胞癌の診断割合が増加していた。一方、インターフェロン著効による陰転者は18.3%であった。

経過観察時(最近)の治療状況では、無症候性キャリアの58名は経過観察37名(63.8%)、肝庇護療法10名(17.2%)、インターフェロン治療8名(13.8%)、DAAs治療1名(1.7%)、強力ミノファージェン2名(3.4%)であった。慢性肝炎では、肝庇護療法82名(42.7%)、インターフェロン治療46名(24.0%)、経過観察30名(15.6%)、DAAs治療19名(9.8%)、強力ミノファージェン14名(7.2%)であった。肝硬変では、肝庇護療法11名(33.3%)、強力ミノファージェン9名(27.3%)、インターフェロン治療7名(21.2%)、DAAs治療4名(12.1%)、経過観察1名(3.0%)であった。肝細胞癌と診断された24名は、

癌治療10名(41.7%)、インターフェロン7名(29.2%)、肝庇護剤3名(12.5%)、強力ミノファージェン2名(8.3%)、DAAs治療1名(4.2%)、経過観察1名(4.2%)であった。

臨床診断名に変化が認められた方は227人で、改善例115人(23.5%)、進行例112人(22.9%)であった。改善例の7割は、インターフェロン治療によるウイルス陰転例(88人)であった。

図4 インターフェロン未治療理由 一年代別

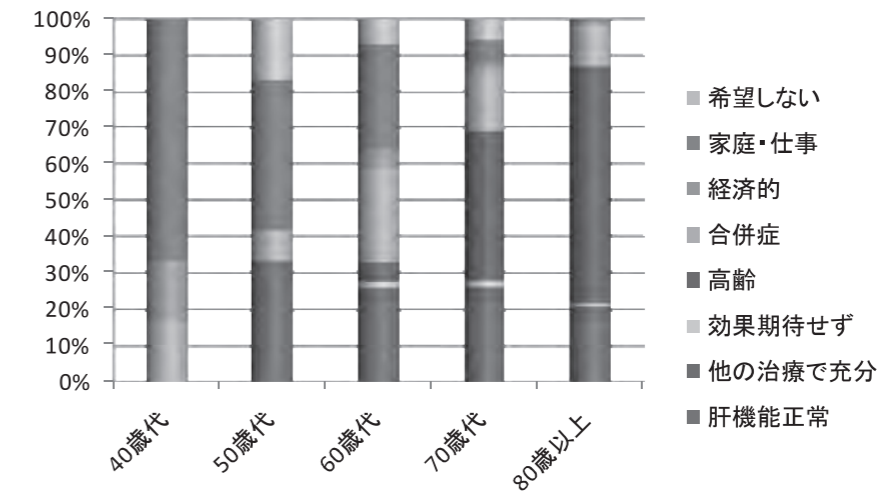


図5 医療機関受診状況の推移

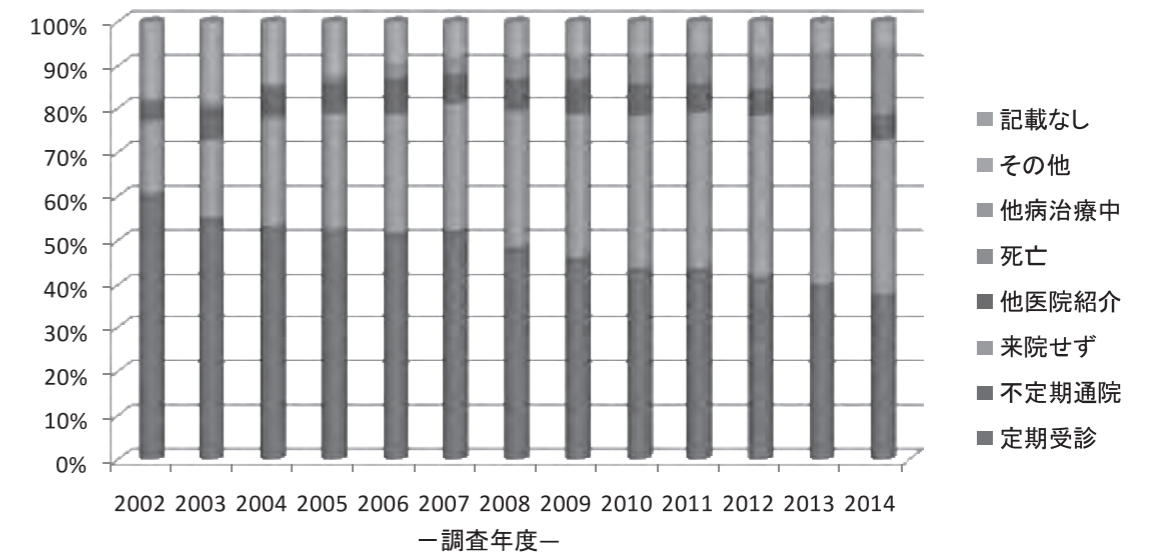


図6 医療機関受診状況 一年代別

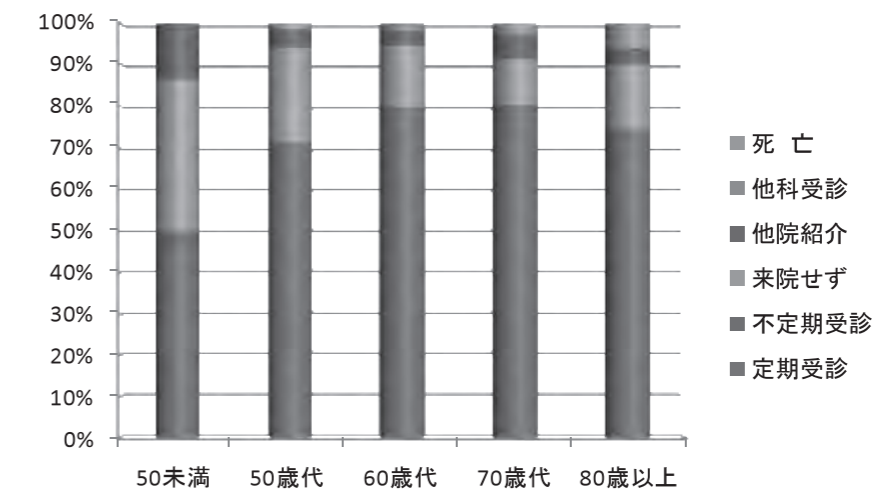


図7 臨床診断名の変化

